

地域で考える 薬物依存症の回復支援

—生きづらさを抱える人たちをどう支えるか—

薬物依存症に対する社会のイメージはとてもネガティブですが、治療や相談の場に現れる薬物問題を抱える人たちは、問題のない人たちと、そう変わりのない普通の市民です。ただ、様々な生きづらさを抱え、それに対処しようとするうちに薬物に出会ってしまったという人が多いのです。

薬物依存症の人は他者に相談したり、助けを求めたりすることが苦手だと言われています。依存症に対する治療や支援は、単に薬を断つことを求めるだけではなく、生きづらさを抱える人に対する支援であることを、関係者がよく理解し、自分ができることは何かを考える必要があります。また、生きづらさを抱えた人たちから、相談し助けを求める力を引き出し、その受け皿を用意することは、薬物乱用の予防や依存症の早期治療に役立つだけでなく、自殺対策や社会全体のメンタルヘルスの向上にもつながると考えられます。

若者に開かれ、小さなことから気軽に相談できる地域づくりのためにできることを、一緒に考えていきたいと思っています。

日時

平成 31 年
3 月 8 日 (金)
午後 2 時～午後 4 時
(開場：午後 1 時 30 分)

場所

京都市男女共同参画センター
ウイングス京都 イベントホール
(京都市中京区東洞院通六角下る御射山町 262 番地)

内容

- ◆ 講演
「地域で考える薬物依存症の回復支援
—生きづらさを抱える人たちをどう支えるか—」
講師：愛知県精神保健福祉センター 所長
藤城 聡 氏
- ◆ 当事者の体験発表

参加費
無 料

(先着順、申込不要)
定員：240 名